

平成27年度のまとめ

平成28年度に入って2ヶ月目になるのですが、27年度の経過を報告いたします。

入館者数は、平成23年の東日本大震災をピークとして、少しずつ減少していました。特に、27年度前半は和歌山県内での大きなイベントの影響もあってか、年間入館者数が過去最低になるのではないかとされていました。

しかし、7月の皇太子殿下の行啓、9月の天皇皇后両陛下の行幸啓によって、皆様の関心が盛り上がりました。究極の話題として、「世界津波の日」の制定によって、マスコミに取り上げられる機会が増加し、世間の感心も高まったのでしょうか。来館者も増加に転じました。防災教育としてこられる学校も、大阪府へと拡大しています。京都府、三重県の修学旅行での見学にも利用されています。

平成27年度の入館者数は29,377名でした。延べ294,016名となりました。

外国語のパンフレットができました

「世界津波の日」が制定され、外国からの見学者の増加が見込まれます。館内の案内表記も多言語化が必要になると考えます。

その第一弾として、パンフレットの多言語化が実現いたしました。

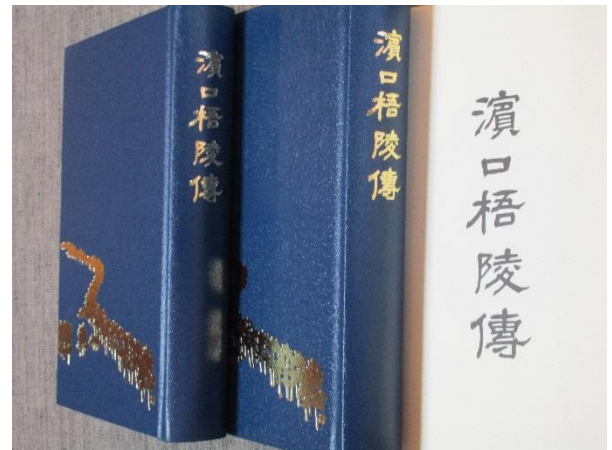


英語、中国語は簡体字と繁体字の二通り、韓国語、インドネシア語のパンフレットが出来ましたので、ご利用いただけます。

現代語訳「濱口梧陵伝」出版される

「濱口梧陵伝」は大正9年、杉村廣太郎(楚人冠)

によって、編集出版されていました。濱口梧陵銅像建設を記念して出版されたものでした。濱口梧陵翁を知る上での原本とも言えるものですが、非売品であり古い時代の書籍のため、一般的には目に触れるのも難しい状態でした。内容も、書簡類は漢文様式で分かりづらかったです。



広川町教育委員会では、この「濱口梧陵伝」を現代語に翻訳して出版しようと準備をすすめていました。そうしたところ、昨年「稲むらの火」の11月5日が「世界津波の日」に制定されました。「濱口梧陵翁」の津波の際の行動が世界で認められたということになります。この現代語訳「濱口梧陵伝」を、「世界津波の日」制定記念の出版にしようと作業を早め、平成27年度末に完成したものです。

津波防災だけでなく、「耐久社」設立等教育振興、東京大学医学部の前進である「お玉が池種痘所」の再建支援等医学への貢献、政界・官界での活躍等々、地元の方々にも知り得なかった内容がたくさん入っています。

稲むらの火の館で販売しています。

1500円です。

<館長の日記>

私は、3月21日から23日まで、宮城県南三陸町を訪問しました。「全国被災地語り部シンポジウム in 東北 ～教訓を未来へ語り継ぐ～」という催しのパネルディスカッションのパネラーとして招かれたものです。主催は、実行委員会となっていました。実質は「南三陸ホテル観洋」で民間団体でした。パンフレットでは200名の募集でしたが、全国からの参加者は300名に及び大盛況でした。



シンポジウムの他のパネラーは、阪神淡路大震災の被災地神戸と淡路の北淡、東日本大震災の南三陸の方々で、災害の体験者で私に期待されたのは、災害を長く伝承していることでした。コーディネーターは、大阪府立大学の先生でした。

主催された「ホテル観洋」は毎朝、語り部バスを出して南三陸町の被災地を案内しています。これを含めて、私には広い範囲の被災地を案内してくれました。「防災対策庁舎」「大川小学校」等大勢の犠牲者を出した所では手をあわずには居られませんでした。ホテル観洋の女将さんの気仙沼の実家も被災したのですが、建物の外側にある螺旋階段を登って近所の人々も助かったということです。屋上に避難していたこの人たちは二日後にヘリコプターで救出されたそうです。



～お客様の声～

- ① 和歌山旅行に滋賀から来ました。子どもの国語の教科書にのっていて、急きょ訪れましたが、すごく勉強になりよかったです。(女性)
- ② 外国人なので、もっと英語の説明がほしいです。この館はすごい役に立つと思います。特にシミュレーションが楽しかったです。3D映画も歴史も勉強になりました。これからも、たくさん外国人、日本人も来て、つなみのことを習ったり遊んだりしてもらいように。今日はとても楽しかったです。ありがとうございます。(和歌山市在住、女性)
- ③ 建物の入り方が分かりにくかったですが、中の雰囲気良く、展示も見やすかったです。東日本大震災関連の本が、子どもにも分かりやすくよかったです。(岩出市在住、女性)

* * * * *

<昔の写真探しています>

これまでも、何回かお願いをしてきましたが、皆様のお手元に、昔の写真はありませんか。「稲むら」(すすき)の写ったもの、昔は一枚の田んぼに一個はあったので、広い田園風景の中に写っている場合もあります。ご連絡ください。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

Tel : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano/hi/>

*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日：月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29~1/4)

*記念館だけの入場は無料です。

